

第3回-JANOG Telemetry Meeting

2018年9月14日

ネットワークシステムズ 井上勝晴

Agenda

時間	題名	登壇者
18:30 - 18:40	はじめに	井上
18:40 - 19:10	ETSI・IETF標準化活動から見えてきたTelemetry 活用に向けた検討論	赤田 正雄 様, Huawei Japan
19:10 - 19:40	新たな切り口 ~ DNSサーバから見たTelemetry - NWインフラとの相乗効果検討 ~	松本 陽一 様, Akamai Technologies
19:40 - 19:50	休憩	
19:50 - 20:10	Telemetry導入における課題 ~Prometheusによ るモニタリングを導入する中での気づき~	見崎 様, 佐久間 様 IDCフロンティア
20:10 - 20:25	今後の進め方について- Task Group発足について	井上

はじめに

参画企業25社、総勢40名超のメンバー



新たに**Huawei様、Akamai様**が参画

振り返り

機器ベンダーサイド、ユーザーサイド、その他（OSS系、SIer）からのメッセージアウト/情報共有と、ディスカスがメイン

ベンダーサイドからのメッセージ

- ✓ スケールアウト型NWへの進化
 - ✓ 運用効率化、自動化を実現
- ✓ 「Turned Off SNMP」、
「Goodbye SNMP」というメッセージ
- ✓ 「Native vs OpenConfig」という
データモデルの話

ユーザサイドからのメッセージ

- ✓ 現運用手法をシェア
 - ✓ 現運用の困り事、等
- ✓ Telemetryへの期待
- ✓ SNMPからTelemetryへの移行プラン、出来る事、出来ない事への整理

その他メッセージ

- ✓ Elastic Stackの紹介
- ✓ OSSツールを使ったPoC構築例

3方面からのインプットから活発なディスカス、
立ち位置の違いによる、**認識差異、時間軸差異**も見られた

振り返り：ミーティングの総括①

- Telemetryに対する考え方

VendorとUserとの間で、**認識・温度感にギャップ**が存在

- Vendor side

「Goodbye SNMP、Self-Driven Network」等のメッセージアウトがあり、**現運用を変え得る**という意味で、Telemetryに対する高い期待

- User side

興味・期待はあるが、どちらかと言うと**現運用をベース**に、冷静にTechnologyを注視

認識ギャップを埋める施策が必要か・・・

対応状況、設定方法、ユースケース等の情報整備

振り返り：ミーティングの総括②

- ユースケースに対するディスカッション

運用において度々問題となる **Burst Traffic** について、参加者からの経験則シェア、ディスカスあり

- Burst Trafficの**早期検出**はGood Point！！
- しかし、**フロー情報**が解らないと対処が出来ない
(どのSrc/DstのTrafficがBurstしているか解らないと対処出来ない)

現実的な利用には、**他技術（xFlow等）との併用利用、**
他システムとの連携が必要か・・・

振り返り：ミーティングの総括③

- システム複雑化への懸念
 - 取得した**膨大なデータへのケア**（Storage, DB管理が追加）
 - ✓ 圧縮やサマライズ機能等、Tool検討時に要考慮
 - **ベンダー毎のCollector**（現状）
 - ✓ OpenConfigによるデータモデル共通化と同じく、Transportの統一も期待したい – gNMIに期待

Network視点だけでは無く**インフラ全体**で見る必要がある、
このような視点から、運用の**Game Changing**も期待

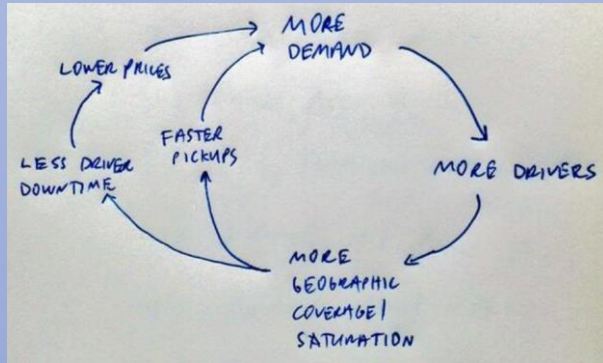
Agenda (再掲)

時間	題名	登壇者
18:30 - 18:40	はじめに	井上
18:40 - 19:10	ETSI・IETF標準化活動から見えてきたTelemetry 活用に向けた検討論	赤田 正雄 様, Huawei Japan
19:10 - 19:40	新たな切り口 ~ DNSサーバから見たTelemetry - NWインフラとの相乗効果検討 ~	松本 陽一 様, Akamai Technologies
19:40 - 19:50	休憩	
19:50 - 20:10	Telemetry導入における課題 ~Prometheusによ るモニタリングを導入する中での気づき~	見崎 様, 佐久間 様 IDCフロンティア
20:10 - 20:25	今後の進め方について- Task Group発足について	井上

Task Group発足について

今後の進め方について- Task Group発足について

有用な成果物を短期間で作成すべく、**目的毎にTask Group**を発足、各TG毎にメンバーを募り「**有志で成果物を作り上げる**」。



ユースケースTG

ユースケース取りまとめ
理想論・夢
現実的利用方法



情報整理TG

対応機器、対応OS、セン
サーパス情報等の情報整理



コレクタ検討TG

対応機器、対応OS、セン
サーパス情報等の情報整理

Task Group案を募集します。WG ML宛、チェア宛にご連絡下さい。

Task Group : 活動イメージ

Task Group
提案

メンバー募集

Task Group
活動
(アウトプット
創出)

WGメンバーへ
の展開

WGメンバー皆様の**善意**で成り立ちます、ご協力下さい。

Task Group Proposal (例)

分類	内容
Task Group名	情報整理Task Group
背景	これまでのWG活動にて、「Telemetryに関連する情報整理（機器・OS対応状況、センサーパス情報、等）が本技術の利用検討には必須である」、という声が主に利用者側からあり
目的・目指す成果	ベンダー様にご協力頂きながらTelemetry情報整理、WGメンバーへの展開
Task（実作業）	項目整理（対応機器、OS Version、Config、、等）とベンダー様への折衝
Task Group運営方	TGメンバーにて後日決定

Wrap Up

- Telemetry -> one of them
 - Data Plane – iOAM, hip?
 - Control plane
- Standardization – IETF? or Google?
- DNS telemetry, 多次元解析、攻めのTelemetry利用
- データ解像度、という考え方 -> 目的に応じた設計